

2019年6月28日(金)労働政策フォーラム

がんに負けるな

～がんになっても、わたしの居場所はここだ。～

伊藤忠商事株式会社
人事・総務部企画統轄室
西川 大輔



ひとりの商人、無数の使命

会社名 : 伊藤忠商事株式会社

創業 : 1858年(創業160年)

設立 : 1949年12月1日

代表者 : 代表取締役会長CEO
岡藤 正広

本社 : 東京 / 大阪

資本金 : 2,534億円

当社株主に帰属する

当期純利益 : 5,005億円(2019年3月期)

従業員数(単体) : 4,285名(2019年3月末)

従業員数(連結) : 119,796名(2019年3月末)



<東京本社>



<大阪本社>

「厳しくとも働き甲斐のある会社」

他商社比で圧倒的に少ない少数精鋭体制で、
社員一人ひとりが緊張感を保ちながら、
お客様目線で生き生きと働き、
高い生産性を発揮し、大きな成果を挙げてほしい。
そして、全ての社員が健康で幸せであってほしい。
全てのステークホルダーのために。

労働生産性の向上



A 業務効率性の追求

- ・無駄な会議・資料の削減
- ・朝型勤務、110運動
- ・メリハリある働き方の実践
- ・ICT基盤の拡充(統合データシステム)
- ・RPAによる業務自動化
- ・業務プロセス改革(BPR)
- ・シンククライアントPC全社配布

B 社員のMotivation向上

- ・業績連動の処遇
- ・持株会を用いた株式報奨制度
- ・職場環境整備
(独身寮、クールダウンルーム、シャワーラウンジ)
- ・「全ての毛細血管に血流を」(環境不良地訪問)
- ・脱スーツ・デー
- ・女性、シニアの活躍推進

生産性の向上

D 健康経営

- ・伊藤忠健康憲章
- ・**がんと仕事の両立支援**
- ・健康管理体制の強化
- ・メンタル対応強化
- ・スタイルアッププログラム
- ・海外駐在員の健康管理

C 社員の能力開発

- ・フルレンジの教育研修
- ・中国人材1,000人プロジェクト
- ・早期海外派遣(第三言語習得)
- ・経営管理、次世代研修(Tech Camp等)
- ・グローバル人材戦略(CITIC・CP研修等)
- ・注力分野への戦略的な人材再配置

E 魅力ある社内風土

風通しの良さ、公正な評価、やり直せる文化、お客様目線、三方よしの精神

がんに負けるな(2017年7月21日)



社長メッセージ

『がんに負けるな』

岡藤正広

2017年7月21日

本年2月と3月に発信しましたメッセージに於いて、病気で亡くなられた当社の社員が伊藤忠のことを「日本で一番いい会社」だと言ってくれ、そしてまた、私もこれからの伊藤忠を故人が残してくれた言葉に相応しい、一層素晴らしい会社になろうと、改めて心に誓ったことは既に皆さんにお伝えしました。

その後も社員でガン等の重い病気に罹患された方が何名かいると聞いています。また、現在ガンと闘いながら働いている社員も少なくはありません。

一方で、過去に重い病気での闘病の後に職場復帰をされ、素晴らしい業績を上げられた社員もいます。これまでの優秀社員表彰や優秀CEOクラブに選抜された方の中にもその様な方々がおられます。このことは私に大きな勇気を与えてくれます。

斯様な状況を踏まえ、やや重たい内容とはなりますが、以下私の考えを述べたいと思います。

当社は同業他社に比較し、社員数が一番少ないだけに社員一人一人の価値は大きく、私にとっては皆が家族のようなものです。

社員がガンや重い病気に罹患したとすれば、私は自分の家族が闘病しているつもりでこれに臨む積もりです。元気な時はもとより、たとえ病気になっても、皆さんの真の居場所は今現在の職場なのだと思われたいような場を私は伊藤忠で提供したいと思っています

現在日本人の二人に一人がガンに罹患すると言われていています。この病気は、一般的には、一定期間の集中した治療とその後の入念な長期フォローが求められる大仕事になります。当社としてもこの現実を踏まえ、しっかりした対応策を講じておきたいと考えています。

その為には、ガンに罹患したとしても、本人が安心してそれを職場で相談し、職場の仲間が皆で支援をすることができるような仕組み・体制を作りたいと考えています。病気になっても、引き続き現在の職場を最善の居場所として、安心して働きながら治療に専念してもらいたいと思うのです。

皆さんのご家庭でも、家族の危機に際しては、家族全員が、持ち得る最大限の力と団結心とで支え合うことと思います。私達の職場も同様であって欲しいのです。

闘病に際しては、最先端の治療が受けられる様に支援を考えたいと思います。

また、治療だけでなく、普段からガンにならない予防も重要であり、そのための施策も合わせ強化して行きたいと思います。

また「日本で一番いい会社」と言ってくれた故人に思いを馳せ、敢えて私から宣言しておきたいことがあります。それは、仮に病気や怪我で、社員が在職中に万が一の事態になっても、残されたご家族に心配がないように徹底した支援を行って行きたいと言うことです。残されたお子さんがいる場合には、何人いようと全員、大学院を終了するまでの教育費補助を拡充します。将来、お子さんが社会人になる際に、就職先として当社グループを希望されるならば、適切な職場をグループ内で斡旋するようにしたいと思います。

また、仮に残された配偶者が家事専業であり、ご本人に就職の意思があるのであれば、当社グループの中で必ず職場を斡旋したいと思います。

私自身も昔、比較的大きな病気を体験し、希望を失いかけたこともありました。病気になられた社員が、常に前向きになれる様に、最小限の心配と、最大限の希望を持って働き続けてもらいたいです。そして再び元気に生まれ、優秀社員として表彰されるような人になってくれれば、素晴らしいことだと思います。それはご本人の働き甲斐になるだけに留まらず、周りの社員にとっても大きな幸福となります。私はそのような例を何度も目の当たりにして来ました。

人は自分の居場所はここだと思った時に、大きな力を発揮するものです。その力は業務遂行のみならず、闘病に於いても有効です。皆さんの居場所は、伊藤忠の現在のその席であって、皆さんは、かけがえのない伊藤忠の家族であることを常に忘れないでいただきたいと思っています。当社は再チャレンジの利く会社です。そしてそれが伊藤忠の持つ大きな強みの一つでもあります。

今般、中計最終年度のサブタイトルを「進化する無数の使命、成長 その先へ」と変更したのも、利益競争だけでなく、経営の質を上げ、社員が、効率よく健康に働くことができ、仕事にやりがいを感じ、生活に充実感を覚え、かつ世の中から評価されるような会社を作りたいという強い思いからです。私は真に「日本で一番いい会社」を作りたいと思っています。

<闘病しながら働く社員へアンケート実施>

■職場での病状共有範囲

組織内共有済み:約25% 限定共有:約65%

■特に多かった回答

仕事との両立における悩み

- ・ 時間的に治療をしながら就労すること
- ・ 体力的に勤務時間・通勤時間の負担が大きいこと
- ・ 再発への不安
- ・ 周囲へ迷惑かけるかもしれない

心の支えになっているのは何か?

- ・ 家族の存在、医療スタッフの支え
- ・ 仕事のやりがい、職場で必要とされること、社会や人とのつながり

会社に望むこと

- ・ フレキシブルな働き方によるキャリアの継続
- ・ 仕事と両立していくための相談窓口、サポート体制

予防

- **国立がん研究センターとの提携**
 <がん特化健診義務付け : 早期発見率向上>
- 国境なきコンシェルジュ機能
- 生活習慣病の未然予防への意識醸成
 - ◆ 健康マイページ全社員配信
 - ◆ 生活習慣病予備軍への個別プログラム
- 禁煙治療費全額補助
- 定期健康診断により各種癌をスクリーニング的に観察
- ABC健診/ピロリ菌除菌、B型/C型肝炎治療

治療

- **国立がん研究センターとの提携**
 <がんセンター専門医による即時治療>
- **がん先進医療費会社負担**
- 総合病院に匹敵する非常勤専門医を健康管理室に配置し、充実した相談体制
- 高額療養費補助
 - ◆ 個人負担2万円/月超過分は健保が付加給付
- コンシェルジュ(※)による迅速且つ手厚いフォロー

※社員の健康をマンツーマンでサポートする担当保健師・看護師

共生

- **がんと両立支援体制構築**
 - ◆ **両立支援コーディネーターによる窓口設置**
 - ◆ **ガイドブック作成、組織長への啓蒙**
- **がんと共生を評価指標に反映**
 - ◆ **個人業績目標の一つに設定**
- **将来の不安軽減**
 - ◆ **子女育英資金拡充、子女就労支援**
- 柔軟な勤務・休暇制度の整備
 - ◆ 短時間、勤務日選択、フレックス、在宅勤務
 - ◆ 長期傷病休暇(最大60日)
 - ◆ 長期欠勤・休職期間(最大5年半)
 - ◆ **公休付与3年間18日付与**
 - ◆ テレワーク体制構築(ITインフラ整備)
- 充実した長期欠勤・休職期間中の傷病手当
- 会社とのつながり
 - ◆ コンシェルジュの定期面談による状況サポート

< 国立がん研究センターとの提携する大きな意義 >

予防

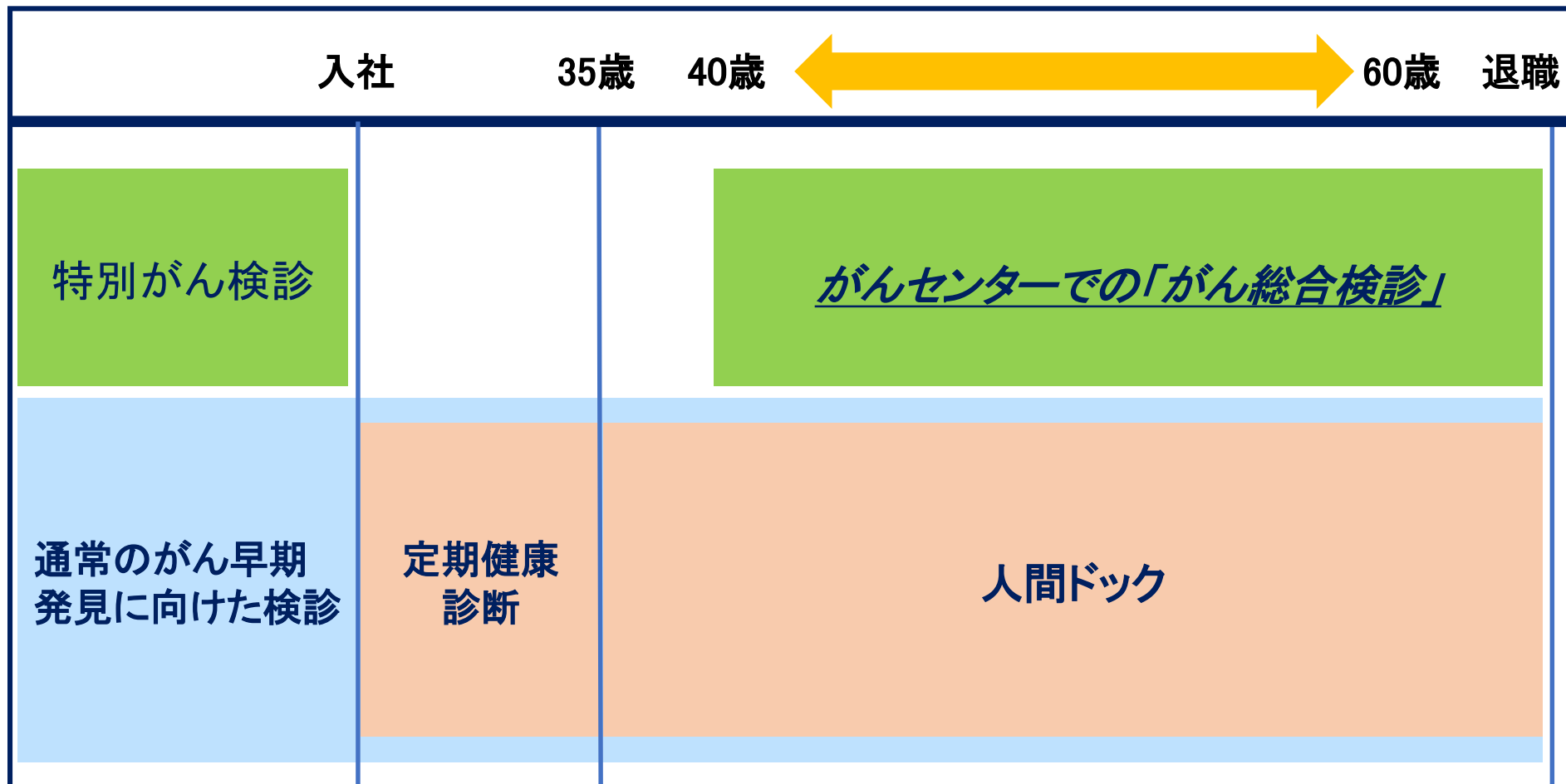
- 専門医による、「がん特別検診」によるがんの早期発見。

治療

- 陽性反応が出た場合、がんセンターでの精密検査を手配。
- がんを発見した場合、がんセンター専門医と即時連携。
直ちに、最先端治療に入ることが可能。

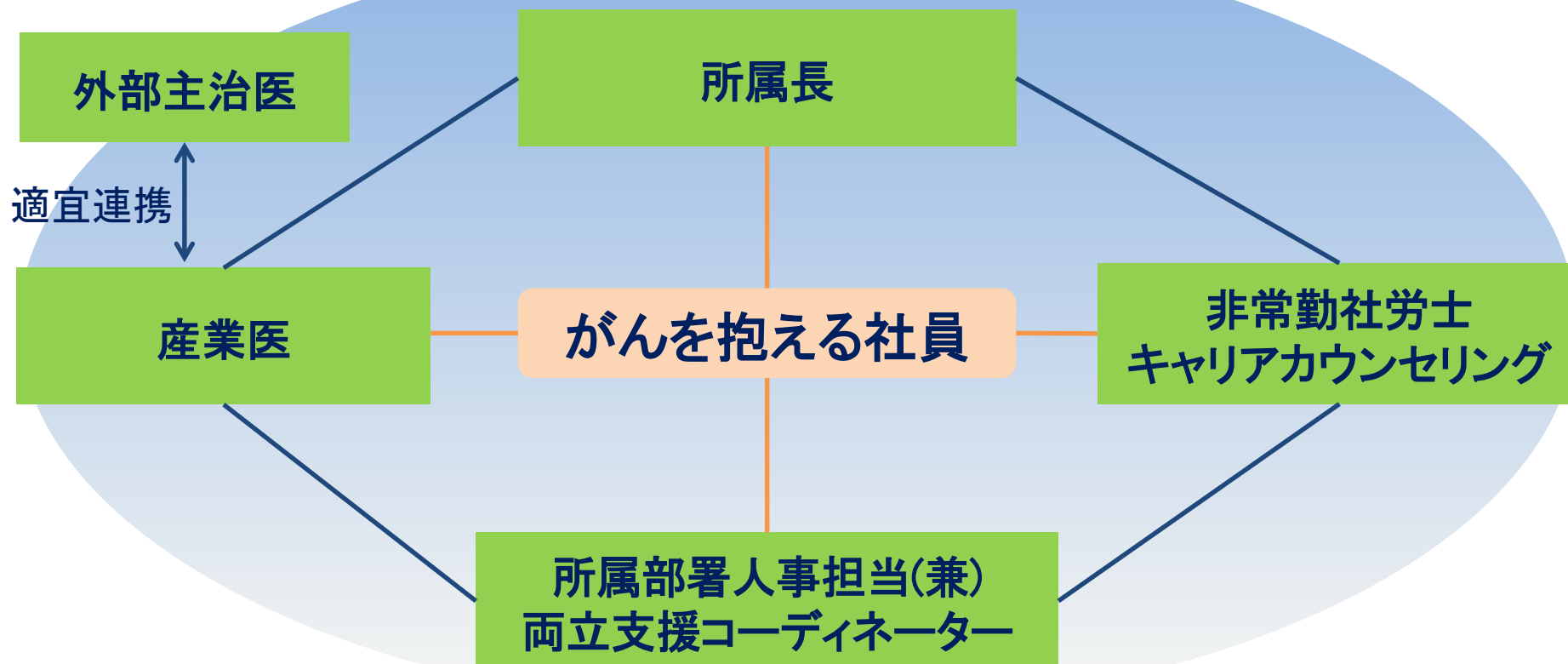
社会貢献

- がん罹患前も含めデータ提供し、がん制圧研究に寄与。

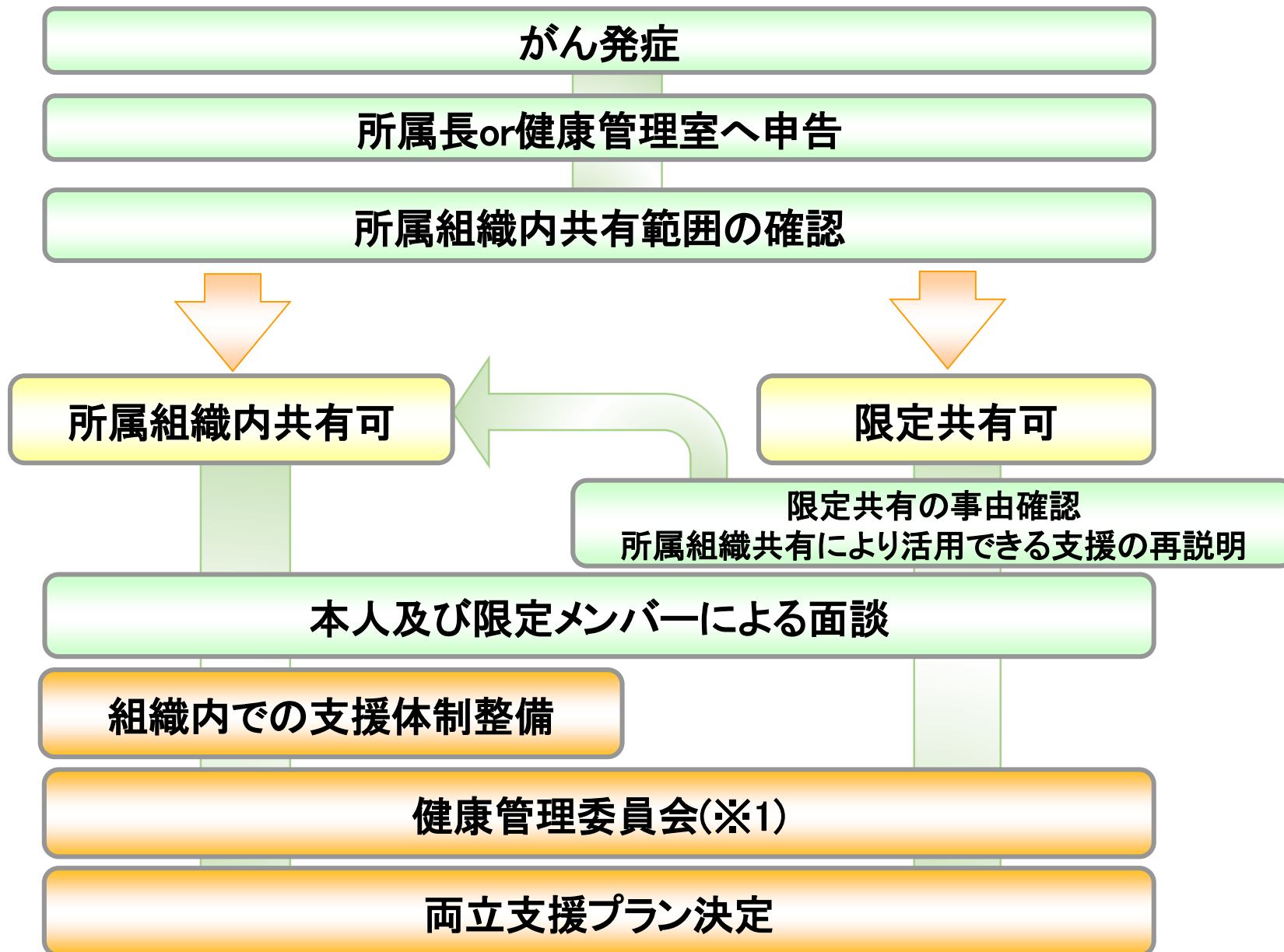


- 組織長が中心となり、本人が両立支援できる体制・風土を作る
- 第一報を受けた後、個別の病状に応じて対応

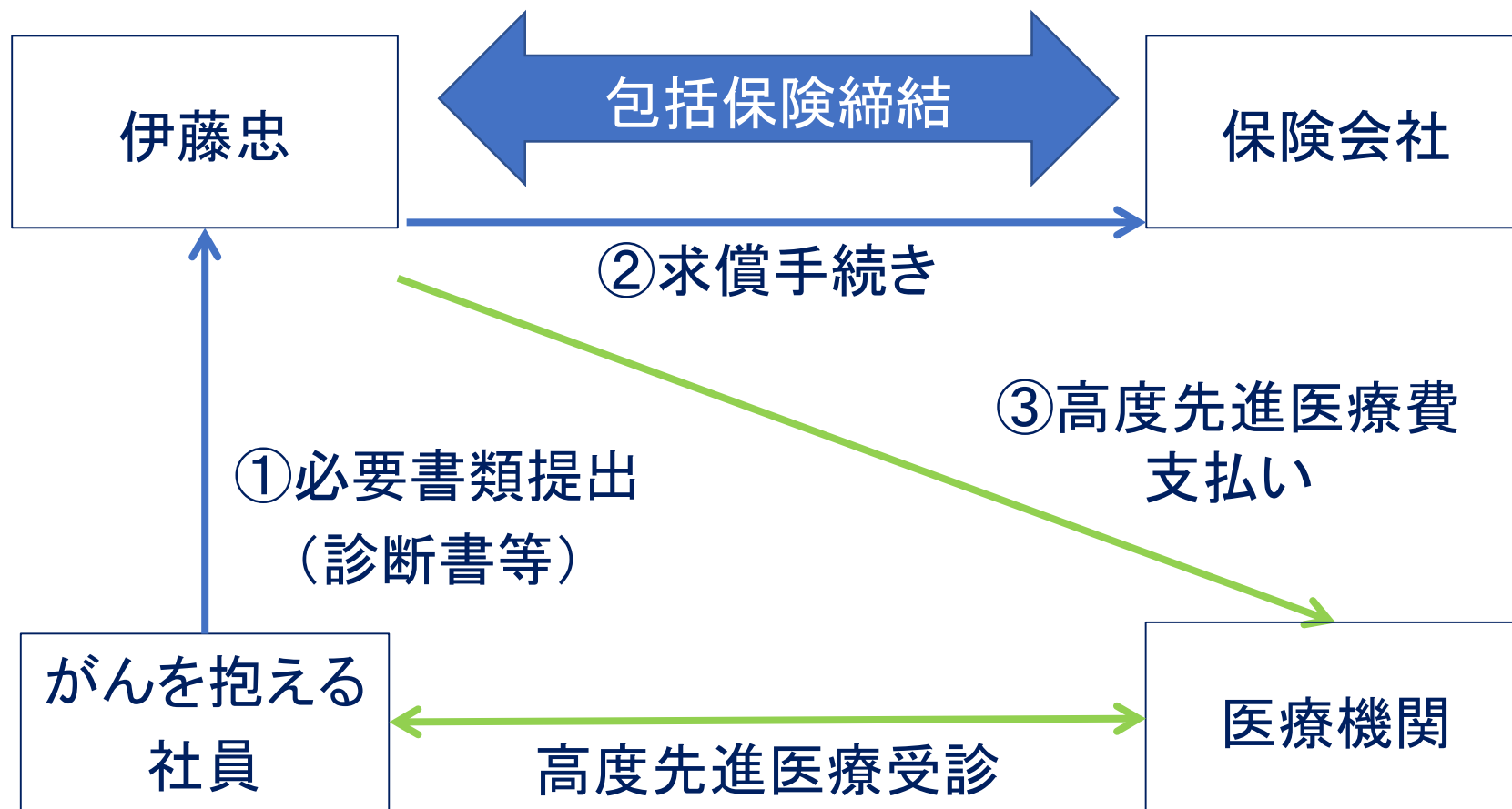
がんと仕事の両立支援体制



- ✓ 対象社員の治療と仕事の両立支援をサポート
(支援施策の案内、両立支援プラン作成など)
- ✓ 支援体制の啓蒙(ハンドブック作成、組織長への研修実施)

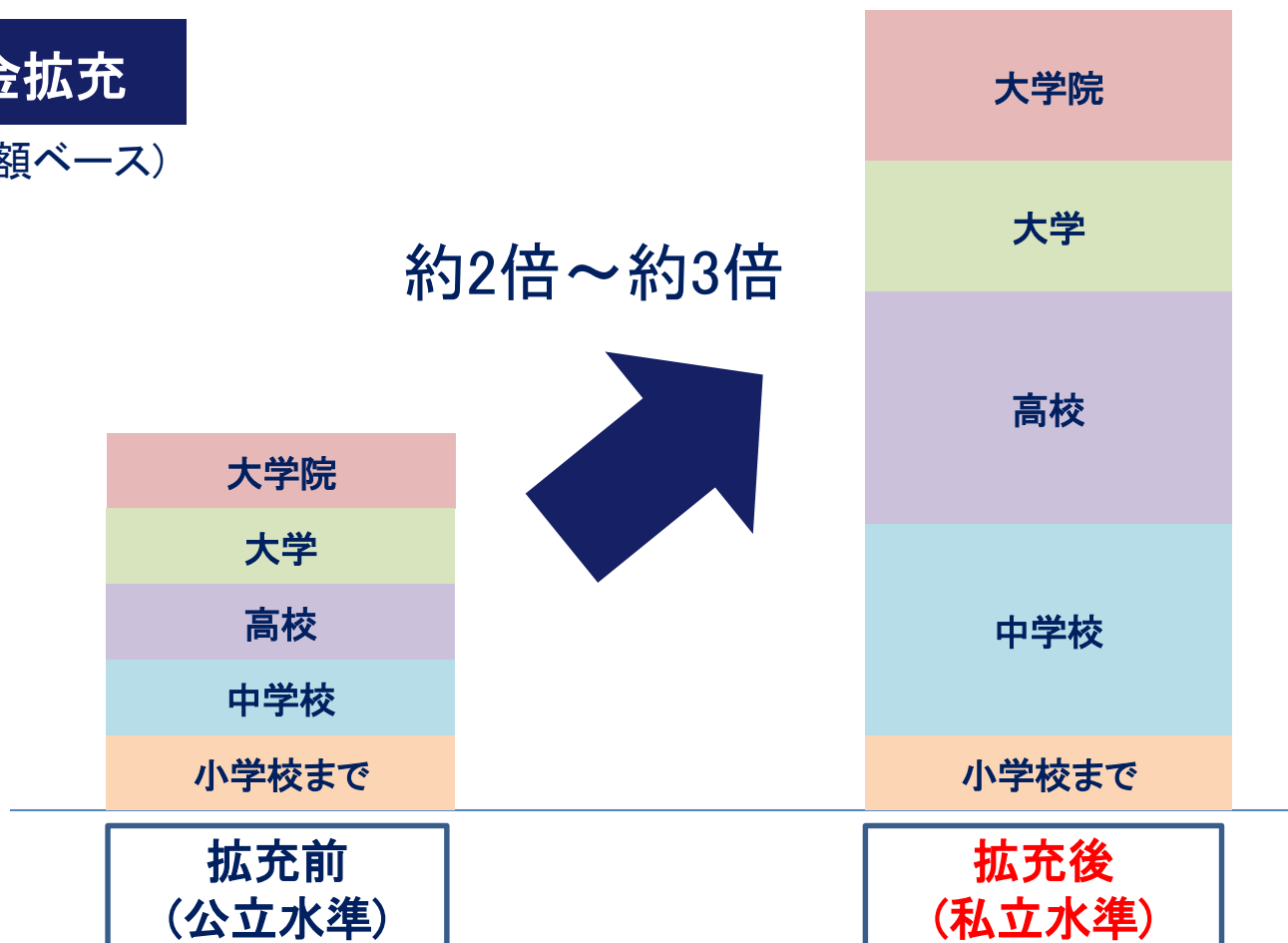


➤ 全額個人負担の「高度先進医療費」を全額補助。



子女育英資金拡充

※拡充イメージ(年額ベース)



子女就労支援

- 残された家事専門の配偶者に対して、本人の希望に応じてグループ内での就職を斡旋。
- 残された子女についても、本人の希望に応じてグループ内での就職を斡旋。

「がんになっても、私の居場所はここだ」をより堅固にするため、

通常業務の評価と同じ手法で、
病気と仕事の両立(支援)の状況を評価

概要

- 両立支援体制の一環として策定する「両立支援プラン」をベースに、上司と相談の上、病気と仕事の両立に関する個人業績目標(MBO)を設定。
※上司は、この個人業績目標を支援することも業務となる。
- 目標は、病状や検査数値の改善といった必ずしも思い通りにならないことではなく、「病気と仕事の両立」をいかに実現するかを設定(引継やテレワーク等)。
- 目標の達成に応じて、業績評価としてプラス評価し、賞与に反映。

- ✓ 毎月開催の朝活セミナー(7:30~9:00)を活用し**専門家によるがんに関する基礎知識セミナー**を実施→東大中川先生ご登壇、約300名の社員が参加
- ✓ 「がん対策推進企業アクション」公式小冊子「**がん検診のススメ**」を社員へ配布。

▼朝活セミナー会場(東京)の様子

8月伊藤忠朝活セミナー

『最強最高のがん知識』著者中川氏登壇
「ビジネスパーソンの新常識！
日本人最大の敵・がんに克つ最強ストラテジー」

8.23
thu

7:30

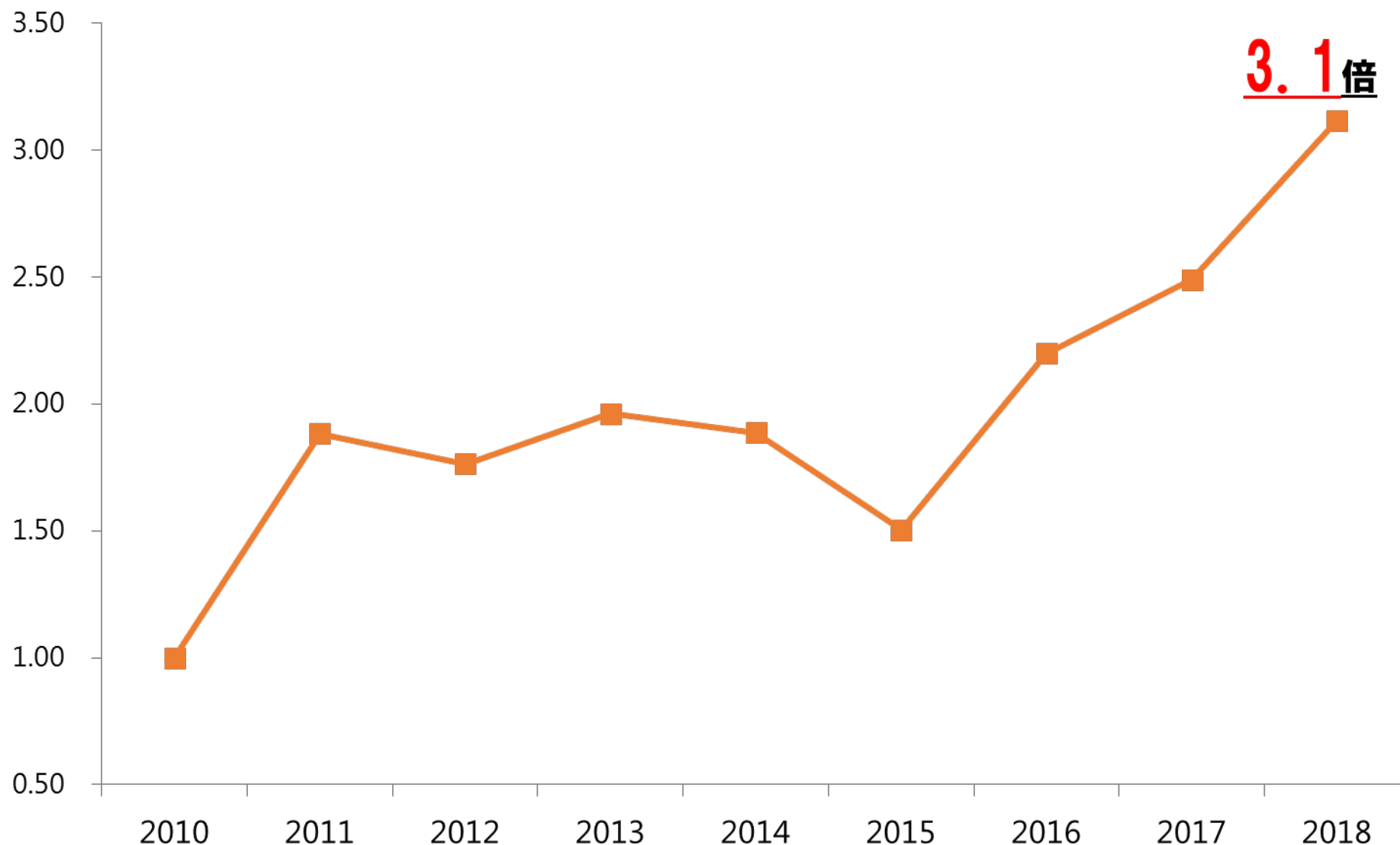
▼
8:55



- ✓ 「がんになっても自分の居場所はこちらである」という安心感
- ✓ 孤独からの救済
- ✓ 支えられる本人の帰属意識・やりがいの向上
- ✓ 皆の理解のもとに組織全体でサポートする精神と組織体制
- ✓ 支える周囲の意識を改革し、団結力を高め、支え合う風土を醸成



組織力の向上 → 企業価値の拡大



3.1倍

※2010年度を1とした場合の労働生産性推移(連結純利益/従業員数)

ひとりの商人、無数の使命

伊藤忠商事株式会社